

公立大学法人岩手県立大学総合政策学部による「まちなかウォークラブル推進事業及び盛岡城跡公園芝生広場整備事業の実施に向けた調査」の結果について

1 実施概要

(1) 目的

岩手県立大学総合政策学部教授 倉原 宗孝 氏のゼミ生 11 名（3～4 年生）（以下、調査者）の協力を受け、①桜山地区、②内丸地区、③盛岡城跡公園芝生広場の 3 地区において国土交通省が公表している「まちなかの居心地の良さを測る指標」（以下、指標）をもとに現地調査を行い、まちなかの回遊性を高め、居心地が良く歩きたくなるエリアの形成を図るための課題を抽出し今後の事業検討の参考とすることを目的に実施した。

(2) 調査地点

①桜山地区（市道内丸大通三丁目線）

サンビル交差点～(株)岩手日報社付近、桜山神社参道

②内丸地区（市道内丸本町通一丁目線）

市道本町通一丁目新庄町 1 号線丁字路交差点～県道 1 号盛岡横手線交差点

③盛岡城跡公園芝生広場（中津川側公園広場、ビクトリアロード）



(3) 調査日程

令和 5 年 8 月 10 日（木）、17 日（木）、22 日（火）、23 日（水）、29 日（火）

※日程、時間は学生が任意で設定

(4) 調査方法

調査者を2～3人のグループ4組と個人グループ1組（以下、調査グループ）にわけ、各調査地点における滞在者数や通行者数の計測（概ね3分）、指標の調査項目に沿った評価を行ったほか、調査者（調査グループ）が当該調査を通して感じた意見等をまとめた。

2 調査結果

各地区における指標の確認結果及び調査者から出された主な意見等は次のとおりである。指標は、国土交通省作成の分析ツールに基づき安心感、寛容性、安らぎ感、期待感の4項目でそれぞれ評価され、現地で実際に見たこと、行われていたこと（活動）の評価点4.0点及び調査者が現地でも感じたこと（主観）による評価点4.0点の合計8.0点が満点となる。なお、4項目の定義は下記参考のとおりである。

（指標の定義）

- 安心感 不安感を覚えず滞在・活動ができる状態や要因・結果
- 寛容性 違和感や疎外感がなく滞在・活動ができる状態や要因・結果
- 安らぎ感 その場所に安らぎを感じ、その場所に留まろうとする状態や要因・結果
- 期待感 そこで行われる非日常的な活動への期待・喜びを創出する状態や要因・結果

① 桜山地区

●指標調査結果

全項目で4.0点を超えているが「安らぎ感」が4.2点と低いことから、休憩やリフレッシュのために訪れ、落ち着いてゆっくり過ごしたいと思われる空間づくりが必要と考えられる。



●調査者の意見等

「ほぼ全域を飲食店や物販店が占めており新旧の店舗が調和している」、「隣接する大通よりも個性的な店舗が多く魅力がある」といった地区全体にかかわる強みや「自転車走行帯があり歩きやすい」という声が挙げられた一方、「座って休める場所が少ない」、「駐車場がない」、「全体的に中が見えにくい店舗が多い」、「若い人が入りやすくなるような雰囲気づくり（例：赤提灯を掲げるなど）が必要」といった意見があった。

② 内丸地区

●指標調査結果

「安心感」以外は4.0点を下回っており、特に「安らぎ感」「期待感」はそれぞれ2.7点、2.8点と低い。「安らぎ感」については桜山地区と同様に落ち着いて過ごせる空間づくりの不足によるもの、「期待感」は人を惹きつけるワクワク感・非日常性の不足が要因と考えられるため、「非日常感・オリジナル感のある地域コンテンツの創出・活用」等の検討が必要と考えられる。



● 調査者の意見等

「老舗が立ち並んでいる」、「一本道で見通しがよい」という意見があった一方、最も多かった意見として「歩道が片側のみまたは両側とも無い区間があるため歩きにくい」というものがあった。また、「信号がなく危険」という安全面に関するもの、「興味深い眺めがない」、「休める場所や憩いの場などはあまりない」といった空間に関する意見のほか、気づいた点として、「北から南（本町通から桜山方面）へ移動する人が多い」という話があった。

③ 盛岡城跡公園芝生広場

● 指標調査結果

「安心感」「寛容性」「安らぎ感」の3項目で5.0点を超えておりポテンシャルの高さが窺えるが、「期待感」のみ3.7点に留まっていることから、内丸地区と同様にワクワク感・非日常性を高めるための空間づくりや利活用の検討が必要と考えられる。



● 調査者の意見等

「まちの中心部にあって豊かな緑があり木陰で涼むことができる」、「ベンチに座って休むことができる（落ち着ける空間である）」といった長所が挙げられたほか、「岩手公園地下駐車場からのバリアフリーが確保されている」という点も良いポイントとされていた。プラスできればよい点としては、「イスに加えてテーブルや屋根の設置」、「アクティビティや娯楽、音楽があるとさらに楽しくなる」といった意見があった。また、当該調査の発表会において盛岡城天守閣（櫓）復元の話が出た際に、一度ペットボトルや雪（雪像）など仮設の物で復元後のイメージを考える機会があってもよいという意見が出された（倉原氏ほか学生数名）。

④ 3地区共通

「路面の陥没や段差があるため歩きにくい」、「自転車が通行しづらい」という意見があった。